

この度は、Webセミナーにご参加いただき誠にありがとうございます。セミナーのときにいただきましたご質問に以下の通り回答させていただきます。

また、今回は情報収集から戦略までの大まかな話をさせていただきましたが、次回からはより具体的なセミナーを開催していきたいと思いますので今後ともよろしくお願いします。

2009年6月1日
山内 俊哉

Q: NR7 はそのようなことが多いですか？何か特別な理由は考えられますか？

A: 大きな材料が後に控えている時や欧米の市場が休場のときに比較的 NR7 が出現する確率が高いようです。大きな材料が出る前は市場参加者が様子見を決め込むため、価格の変動が抑えられ、材料が出たときにどちらかに動き出すのではないかと思いますし、また、休場明けの場合も市場参加者が戻ってきて、相場を動かそうとするため、大きく動くのではないかと思います。相場格言にも「もち合い放れにつけ」といい、上下のレンジ(一定値幅での取引)が続き、そこから抜け出た方向に相場が動くというのがあります。そういう動きを統計的に見ると、過去7日間のレンジを比較するというのが効率的に良いのではないかと思います。

Q: エリオット波動は重視されますか？

A: エリオット波動は起点をどこにするかにより、見方が異なることから、個人的にはあまり重視していません。どちらかといいますと、大きな流れはファンダメンタルズで見えていて、短期・中期的な動きは日足、週足の一目均衡表、移動平均線などトレンド系の指標を重視しています。ただ、高値や安値の予想を立てるときはフィボナッチ級数を使いますので、その意味ではエリオット波動の考え方を使っているところもあります。

エリオットの詳しい分析及び見方は、アナリストレポートの森好治郎氏の [Technical Outlook](#) をご参照いただければ幸いです。
